



□ (現代文) 採点基準 (文科) = 合計40点

問1 (5点)

(模範解答例)

(A) 2点

(B) 1点

文字による表現は、発話が物質的素材に移転されたものゆえに、発話の真理性を担保する

(C) 1点

(D) 1点

今よりもむしろ直接的現在性を欠く、過去の不位に評價されるものではない。

以上の4ポイントで採点。Aは「物質的素材に移転された」という内容を押さえて1点。因果関係を明示して1点。Bは単に「真理」と述べるだけでは不十分で得点にはならない。保証と明示して初めて1点。Dは過去の、「不位」と両方の内容があることが望ましいが、現在性の欠如と書くだけで、十分という判断も成り立つので、「不位」の評価」という内容があれば、1点「と」を。

問2 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 1点

著者が現前して語るところに直接性を欠く文字化された書物は、著者の生死とは関わりなく

(C) 1点

(D) 2点

読者の解釈も介入して、著者の意図とはかけ離れた理解がなされていく。

以上の4ポイントで採点。Aについては、単に「文字化」とするだけでは不十分で得点にはならない。正解のような「現在性」の欠如、あるいは逆に「過去の」という説明でも可であるが、文字の領域について、現在「＝」直接、あるいは「過去」という説明が必要。Bは、「著者の死後のみについて言及したものは不可。傍線部直後に明示されているように、著者からの「独立」は、死後のみではない。Cは「解釈」というワードが必須。Dは「著者の意図」という表現が、必要だが、内容的に同様と判断されれば、2点。あるいは1点を「と」を。

問3 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 1点

(C) 1点

元来は商品ながらも商品関係から排除されて、直接的な交換上の相対価値を移転された質

(D) 1点

(E) 1点

弊が、商品世界で「一般的等価物」として「専ら」的交換を媒介するものになった。

以上5ポイントで採点。全体として、「質」についての説明になっていないものは、どんなに細かいポイントを押さえていても0点。Aは「もとも商品」であって「専ら」と述べていなければ可。Bは正解以外では、なかなか得点は困難。Cは「相対価値」の「移転」という文中の表現を押さえていない限り、原則的に得点は与え

ない。Dもこれ以外の表現は不可。Eは単なる「交換の媒体」では不可。「専ら」、「専一的」という表現を伴って初めて1点とする。また「『生き残っている』商品関係」という比喩的な表現をそのまま用いて「幕場的」の説明を試みたものもあるのが、説明不足で、得点にはならない。

問四 (5点)

(模範解答例)

- A 1点 B 1点 C 1点

元来商品たる貨幣が、商品の価値関係を測定する価値一般を表現する価値形式として商品

- D 1点 E 1点

交換を媒介すること自体が、市場的商世界存続のための排除の暴力の痕跡だから。

以上の5ポイントで採点。Aは「商品」ではなく、「素材」という表現でも可。B、Cについては、原則的にこのとおりでなければ不可。Dは「交換」、「媒介」の両者が必要。Eもこの表現以外は考えづらい。問題は、B、C、Dを個別的に説明することなく、「貨幣」という形式「が、あるいは貨幣として存在すること自体が排除の痕跡だから」と書いたものの処理である。モニターにも「いついつ書き方をしたものが多数あり、実際の答案でも多数出ることが予想されるが、これは全体で1点とする。採点の際には、B、C、Dを個別的に説明すれば3点になる」ということを前提として、1〜3点の部分点を確につけ分けるようにお願いしたい。

問五 (10点)

(模範解答例)

- A 1点 B 1点 C 1点

現代、市場的商世界存立のために商品交換から排除され、商品の価値関係を測定し、交

- D 1点 E 1点 F 1点

換を媒介する貨幣と資本と、雑誌を移転した媒体にすぎず、直接的現前性を持たぬため

- G 1点 H 1点 I 2点

真理性も保証されぬ文字化された情報、人の生存が支配されるものになること (11104)

以上の9ポイントで採点。A〜Dについては「貨幣・資本」、「Hについては「言葉」についての説明であり、順番は入れ替わっていても構わない。多数出るとは思われないが、「貨幣」と全く言及しないものは2点減点。「資本」については触れなくても可。A、B、Dについては「この表現とおりが望ましいが、同義と判断されれば、得点をあげる」。Cについては「一般の等価物」という表現も可。Eは「雑誌」との関係について述べるれていなくても、物質的素材に移転「ある」と「単に」媒体」と述べたものも可。Fは過去の「も」。Gは「真確」、「保証」(担保)の両語がそれぞれ1点。Hは情報「はななくとも可。」「文字化」を単に「文字」としたものの、「文字化された書物」も可かなり甘くつけてください。Iは「生き残る」とを許されている「の説明として十分かどうかで判断。そのまま用いたものは1点。また「社会」の「存立」など「社会」についての説明を行ったものは1点。あくまでも「人間」が「生きる」ということについての説明が必要。また、想定される解答として、「貨幣」と「言葉」の共通点をまとめてしまっものが出るかもしれない。「生き残る」関係からの排除といったかなりあいまいな

説明しか不可能である以上、やはり正解のように、両者を分けて説明することが望ましく、まとめてしまったものは、A～Hの個別ポイントをどれだけ押さえているかで採点するかななるが、2～3点が限界であろう。

問六 (各2点)

a || 円滑

b || 擬人

c || 貫徹

d || 婉曲

e || 乱舞

【二】(古文)『沙石集』採石集巻(文法=合点30点)

注意 文法と理科で設問・配点が異なるします。1では文法の採石集巻です。

どの設問でも、誤字、読めないうえがぶり、「こ」を「な」の使われ方の誤り、正しくない表現等は、その程度に合わせる減点とする。

問一【配点35点】

(模範解答例) 厳融坊に給仕する 湯の温度や 湯を出す頃合 について

厳融坊に給仕する

【+ +】左記 二項(「湯の温度」・「湯を出す頃合」)がどちらか一方でもない場合は1の1点は加算されない。

「厳融坊に出す」でも可。「厳融坊に」の代わりに、主語を補った「修行僧が給仕する」・「修行者が出す」・「修行僧たちの」でも可。

「給仕する」のみでも可。

右のように、「湯」が「厳融坊に出されたもの」・「厳融坊が飲むもの」と分かる内容があれば1点

「食後に飲む」等しもなく、解答文意を見ても「厳融坊に出されたもの」・「厳融坊が飲むもの」が不明な場合は、減点<sup>1</sup>。

**湯の温度や【一】**

「白湯の温度や」・「湯の温度の加減や」も可。

「湯加減」は一般に風呂の湯の温度を言いつ事が多いので減点したいが、解答文意から「飲む湯・白湯」の「湯加減」とわかる場合(「白湯の湯加減」等)は可とする。何の「湯加減」か解答文意からはっきりしない場合や、「風呂の湯加減」等、明らかに「飲む湯・白湯」のこととして捉えていない場合は、減点<sup>1</sup>。

この項目(飲む湯の温度)について触れていない場合は、減点<sup>1</sup>。

**湯を出す頃合【一】**

「頃合」は「頃合い」・「タイミング」でも可。(解答にカタカナ語はいかがかと思いが配点が少ないので)

「頃合」は「遅たひくる時が早ゆねの遅ゆね」等、「頃合」の意が感じ取れる表現でも可。「湯を出す」は「湯を持って来る」・「それを持つてくる」・「それを給仕する」・「それを出す」等も可。

右のように「頃合」が「湯を出す頃合」であることが明らかでない「給仕のタイミング」等や、「頃合」を誤ったものの「頃合」としてこの「食事の用意の遅さ」・早く来ても、遅く来ても・食事をとげるタイミング」等は、減点<sup>1</sup>。

この項目(湯を出す頃合)について触れていない場合は、減点<sup>1</sup>。

右「項目(「湯の温度」・「湯を出す頃合」)が不明な「どの頃合に給仕する」等の場合は減点<sup>1</sup>。

「湯を出す頃合を確認しようとする際、湯の温度から様子を見ることがある」との内容はあっても減点がなくて減点<sup>1</sup>。

について(文末表現)

文末は「こと」「もつくは、体言止めでも可。  
文末は「叱られた・腹を立つられた」でも可。なくても減点しない。  
「事細かに・些細な事を」等が入っていても可。なくても減点しない。  
文末表現が正しくない場合は、減点ー。

### 問一イ 【配点3点】

(模範解答例) 湯を出す頃合を 見計らおもひつゝ 障子の隙間から のぞく

#### 湯を出す頃合を【1点】

「湯を出す(給仕する)その頃合を・湯を持って来る(行く)頃合を・口湯を出す時機を・湯を出す機会を」等でも可。

「その頃合を・その具合を・その様子を」等 指示内容が明らかになっていない場合は、減点ー。

「頃合」を誤ったものの「頃合」とつづける「食事を出さむせき」等は、減点ー。

1)の項目がない場合は、減点ー。

#### 見計らおもひつゝ【1点】

「見計らおもひつゝ」も可。「計らひつゝ」も可とある。

「見計らひつゝ」は誤り(「見計らひつゝ」が正)。「見計らひつゝ」は誤り。減点ー。

「見計らひつゝ」(送り仮名の誤り)減点 点。

「探るため・しかがい知らひつゝ」等 探る様子が表れていなくても可。

「窺おもひつゝ」(原文の「み」疑ひ)を使つてゐるも可とある。「伺ひ」は誤りよつて減点ー。

「見よひつゝ」・「見よひと思つて」等「見る」の意味しか表れていない場合は、減点ー。

「1)つづ(のぞく)」はあつても減点つない。なくても良い。

1)の項目がない場合は、減点ー。

#### 障子の隙間から

「障子の間から」・「主語を補つた」・「修行者が障子の隙間から」も可。

1)の項目がない場合は、減点ー。

#### のぞく【1点】

「のぞくつづるよ・のぞく見るよ・のぞくつみるよ」等「のぞく(覗く)」があげられ、可。

「のぞいたのぞ・のぞくつゝ」も許容。

「様子を窺ひつゝ」(原文の「み」疑ひ)を使つてゐるも可とある。「伺ひ」は誤りよつて減点ー。

「見るよ・見てゐるよ」等「見る」の意味しか表れていない場合は、減点ー。

1)の項目がない場合は、減点ー。

### 問一ウ 【配点3点】

(模範解答例) 下を押し懸はひ仕置りひひなる うせごせ なまひ 塵を踏つたぞ

下を押し懸はひ仕置りひひなる【1点】



「細かく言ひ必要があるのか」等 疑問表現になつていても反語としてとれる場合は可。  
「細かく言ひつことがあるだろうか」等 「じかにぶちまわしい」反語として取りにくい場合は減点<sup>1</sup>。  
「細かいことまでとがが及ぶ・細かなことには至らない・細かい所にも影響する・あらゆることに影響する・さしつかえとなるものである・とても怒るのである」等は減点<sup>1</sup>。

### 問三 【配点4点】

(模範解答例) 子を失つて ひどく嘆つて居るのに 兄が弔いに来なうのは 可なり

直後に「も申して」があるので、妹が言った言葉として成立していなさうな書き方は正しくなう。

子を失つて【1点】 ひどく嘆つて居るのに【1点】

「最愛の息子に死なれてひどく嘆いているのに・妹が子を亡くし悲しんでいるのに・子供を失つて親がひどく嘆き悲しんでいるのに」等も可。「妹が・女房が」等の主語はあつてもよいが、なくても減点しない。

「子供を亡くした妹のもとに」・自分の子の弔いに・甥が死んだのに・妹の息子が死んでしまったのに・子供に先立たれた女房を」等、嘆き悲しんでいることについての説明がない場合は減点<sup>1</sup>。

「妹の女房がひどく悲しんでいるのに」等、妹の息子が亡くなったことについての説明がない場合は減点<sup>1</sup>。

「子息が遅れてきたのを」等、「遅る(先立たれる)」の意を誤っている場合は減点<sup>1</sup>。

兄が弔いに来ないのは【1点】

「他人でさえ見舞いに来るのに」はあつても良いが、なくても減点しない。

「兄である上人が弔いに来ないのを・兄が弔いに来なかったのを・上人が見舞いに来ない・弔いにも来ない・厳融坊」も可。

「訪ねて来ないのは」等、主語がない場合は減点<sup>1</sup>。

「法師が弔問に来ない・法師が訪ねて来ない」等、主語を法師としている場合は減点<sup>1</sup>。

「上人はこないこと・兄である厳融坊が来てくれないのは」等、「何に」がない場合は減点<sup>1</sup>。

「見舞いしない」等、こなれない表現・一般的でない表現は減点<sup>1</sup>。

可なり【1点】 六行目の「したて」(「つやだ・不快だ」)に対応して居る。

「不満だ・不快だ・恨めしい」も可

「ひどく嘆いて居るのに」の「可なり」が付いていても可。

「おかしい・おかしこと」も可とする。

「兄(上人)への恨み(不満)」と「つよ」を併用しても可。

不快感を持つ主体として「妹(女房)」を補つてあるのは「じ」では正しくない。減点<sup>1</sup>。

「恨んだこと」と言つて恨んだこと・不満だった」等、過去表現になつている場合は減点<sup>1</sup>。

「恨みなさるな」ということ」等、解答全体に関わる内容として大きく誤りを含む場合は減点<sup>4</sup>。

### 問四 【配点7点】

(模範解答例) 僧の身内ならば、世の無常を知り、子が親に先立って亡くなる事もあつたと理解して、嘆い

たりしてはならない。よじりよ

この問題では、全体として意味が整っていない解答や、語句の使い方や表現が正しくない解答が多いです。適宜減点して下さい。

### 僧の身内ならば【2点】

「法師の妹であるのなら・僧の妹なのだから・優れた法師の妹であるのだから・やはり法師の妹であるからには・やはり法師の親族であるなら」も可。

「法師と親しいということとは・法師と親しいならば」等 親しいという表現は減点<sup>2</sup>。

「この法師の親族であるならば・私の妹なのだから」等 人物を指す語句が曖昧なものは減点<sup>1</sup>。

「名匠と言われる法師の女房であるからには」等 明らかに人物を誤っている場合は減点<sup>2</sup>。

解答後半で「一般人のように嘆き悲しんではいけない」とある場合、解答前半で「出家者の親族であるのだから」等の表現があり、「一般人」が「出家者と縁のない者」とわかるようになっていけば良しとするが、解答文意から「一般人」がどのような人であるか明確にならない場合は、「一般人のように」という表現だけで、この「僧の身内ならば」の代わりとして得点することはできない。

この項目がない場合は、減点<sup>2</sup>。

### 世の無常を知り【1点】

「世の無常」は、「生きている者は（いつか）必ず死に、出会った人も必ず別れ、人間世界はそういうものである・人間世界においては死は老若に関係なく訪れる・生あるものは死に、出会いには別れがある」ということは世の常である・生者は必ず死に・死別や離別は当然あるもので・生あるものが死ぬのは当然のこと」等、「生きものは死ぬものだ」という説明をしていけば、「無常」の語がなくても可。

<sup>1</sup>。「世の中は盛者必衰で」等 無常についていいながらも「生命のはかなさ」を言っていない場合は減点<sup>1</sup>。

「生きる者は必ず死ぬ」という人の世の無常を理解し」等、「無常」の字を誤っている場合は減点<sup>1</sup>。

この項目がない場合は、減点<sup>1</sup>。

### 子が親に先立って亡くなる事も理解して【2点】

「母子の別れも必ずあること・母子の別れのよひな悲しいことも世の中に当然あること・母子の別れも無常な世のことわりだ・子供に先立たれることも世の道理だ」等、「母子の別れは必ずある」という内容であれば可。

「子が親より先に死ぬ」ともある・母が子に先立たれたからといっても」等、「子が親に先立つ」という内容でも可。

「母子の別れがあることを理解し」等、「母子の別れは必ずある」・「子が親に先立つ」という内容になっていない場合は減点<sup>1</sup>。

「理解して」は「わきまえて・悟るべきであり」等でも可。

この項目がない場合は、減点<sup>2</sup>。

### 嘆いたり驚いたりしてはならない【2点】

「嘆くべきではない・嘆いてはならない・嘆いたり悲しんだりするべきではない・嘆き悲しむよひないことではないけない・嘆き驚くべきではない・驚き嘆き悲しんだりしてはいけない」等も可。

「今わたしが嘆くことではない・あらためて嘆き悲しんだりするな・それ以外で嘆くことはない」等も可。」<sup>9</sup>

わら」等の表現はめいしてもよい。なくても減点しない。

「悲しまない」等、禁止・打消当然の意になっていない場合は減点2。

1の項目がない場合は、減点2。

よじりよじり

「よじりよじり」と終わってはおらず、その手前までの説明で終了していても可。

## 問五 【配点7点】

(模範解答例) 怒りは罪であること知らなから怒るのはなぜかと、道理を理解していても実践できていないことを指摘されて、返答にしまったか。

1 1の問題も、全体として意味が整っていない解答や、語句の使い方や表現が正しくない場合は、各箇所適宜減点する。

2 「怒りは罪である(2点指3)」よじり指摘(1点指3)を妹がした(0、敵塾坊がされた)とよじりよじりが書かれていれば5点

3 「道理を理解していても実践できていない(矛盾している)」よじりよじりが書かれていれば4点  
「返答にしまった」はなくてもよい。  
文末表現が「から・ので・ため」もくはそれらを金む表現になっておらず、理由の説明としておそれるものではない場合は、減点3。

(採点例1) 怒ることは良くないと説教した直後に、自分がその道理を実践できていない点を突かれ、何も言わず返せなくなっていましたか。

2も 3があるが、「良くない・突かれ」は模範解答の「罪・指摘され」に比するとやや曖昧さがあるので減点1。計6点

(採点例2) 怒ることは罪だと自らが知りながら、いつも怒っているよじりよじりも、実践できていないと思いつたか。

2はあるが「指摘」がないので減点1。 3はあるが何が「実践できていない」のか説明されていないので減点2。計4点

(採点例3) 女房がいると言いつてくるので誠意をもって答えていたが、いくら言っても上人の言いつつを理解しなかったか。

2も 3もないので、減点3。計0点

(採点例4) 女房にそのよじりよじりも知識があるのよじりよじり意地悪なのはいついてなのかと問い詰められてしまったか。

2はないので、減点3。 3はないよじりよじりもあるが明確でないので減点3。計1点

(採点例5) 敵塾坊が女房の騒ぎを會贖痴の二轉の中の愚痴に記したよじりよじり、逆に會贖痴の怒りが贖痴に記したるのよじりよじりかよじりよじりか。

2があるが、傍線部は正しくないので減点1。 3がないので減点4。計1点。

(採点例6) 妹の女房に性格が悪いのはいけないことだと知っているのに、あまりに性格が悪いと言われてしまったから。

2らしきことはあるが「性格が悪い」は正確でないので減点2。 3がないので減点4。計1点。

(採点例7) 罪のあることだと知りつつも人に意地悪くしている自分のことを指摘され、世の無常を知りながらも息子の死を悲しみ続ける妹を責めることができなくなっただから。

2はあるが「意地悪く」が正確でないので減点1(右の「性格が悪い」よりも具体的)。 3は後半部がこれに相当。計6点。



模範解答例) 宋公の功績を著しいことが

a

c (2点)

b (2点) a (2点)

## 問三 6 点

(3点) 多角的な視点が必要であると考えた

d

b

c

から。

(解答例 6) 宋祁は同の先輩であり、また歴史書の編纂に当たっては自分一人の視点よりも

そのまま積極的な判断をしてはいない。

a

(7点)

から。

先輩である宋祁の功績を損ねてしまっ

た。 (1) 宋祁は不要だがあっても可

a

(解答例 5) 人によって見るところは異なるため、歐陽公が自分の思っままに監修してしまっ

c

b

とと思った から。

d

a (5点)

(解答例 4) 見方は人によって違うことが多いので、すべてを自分の思っままに書くことはできな

c

b

自分が添削する余地はゼロにもな

d

c

x

(解答例 3) 宋公は自分の先輩であり、知名度も宋公の方が高く

b

a

(6点)

とついついは同じではなく、勝手に変えることはできな

d

c や や

ではな

(解答例 2) 宋公は自分の先輩であり、また人によって誰のどついつに注目して列伝を書くか

は マイナス 1) 列伝」の書き方のみの具体的なこ

a

すべてを自分の思っままに書くことはできない

d

c

(解答例 1) 宋公は先輩である上、もの見方は人によって違ってくるので

b

a

d、解答の内容が間違っているものは、ここだけあっていても x。  
直前の「」の内容、a、b、c 各々表現に応じて減点法で採点。

すべてを自分の考えのままにすればは

d (1点)

c (2点)

(模範解答例) 宋公は先輩であり、もの見方は人によって異なるものである

b (2点)

a (2点)

(6点)

a、「言」へへけたや「の反語の訳ができていないものはxマイナス2  
可能の意のないものはマイナス1

b、「掩」が何を「おおう」のかの補いが無いものはマイナス1

c、「其の功」の「其」の内容の補いが無いものはマイナス1

a c

(解答例1) どつしてわざわざ宋公の列伝における深く長い功績を奪つことができようか いやできない。

(4点) bなしマイナス2

a b マイナス1 (宋公を隠す?) c マイナス1 (不足) 可能の意あり

(解答例2) どつして 宋公を隠したままにして 彼の功を奪 えるだろうか。(4点)

a b c 一人で「があるのでOK

(解答例3) どつして 宋公の名をおおい隠して 唐を編纂した功績を一人で奪つことができるとい

(6点) うやできません。

c b c a

(解答例4) 列伝を編纂した 宋公の名を隠して 彼の功績を奪つことが どつしてできようか いやできない

い。(6点)

a b x c 私が列伝を書いて、宋公の列伝の功績を奪つことが できるとい

(4点) bなしマイナス2

(解答例6) どつして 私の名前だけ書いて 宋公の功績を奪つことが できようか。

a b c (こななび)

c x マイナス2

(解答例7) どつして 宋公が列伝を書いたことを表に出さず、自分が列伝を書いたこと できようか。

a b

(4点)

a b マイナス1 c マイナス1

(解答例8) どつして 事業をおおってまでして 列伝の功績を奪つことが できようか。

(6点) a

(解答例9) 宋公の名をおおい隠して 列伝における公の功績を奪つことは できな

b c

#### 問四 4点

(解答) d = 紀念 e = 列伝

両方正解で4点。

#### 問五 各4点

1・2は順序不同であり、二つの要素とする。違う要素の答は不可。

1  
4点

(模範解答例) 宋公の担当した 列伝の記述を まったく改めなかったこと。 (4点)  
a (1点) b (1点) c (2点)

a b c

(解答例1) 宋公の記した 列伝の内容を そのままにして出したこと。 (4点)

OK a b c

(解答例2) 歐陽公が 宋祁の書いた 列伝に まったく修正を加えなかったこと。 (4点)

a・b マイナス1 c

(解答例3) 宋公の記述に まったく手を加えなかったこと。 (3点)

x

(解答例4) 列伝を書くことを宋公に譲ったこと。 (0点)

a b c マイナス1

(解答例5) 宋公が担当した 列伝に 何らの編集も加えなかったこと。 (3点)

あってもよいが得点関係なし b c

(解答例6) 宋公の立場を立てるため 列伝を 一ヶ所も変更しなかったこと。

(aなし) マイナス1 (3点)

x

(解答例7) 二人で一つの書物を書き上げたこと。 (0点)

2  
4点

a (1点) b (1点) c (2点)

(模範解答例) 『唐書』の編者として 自分と宋公の 二人の名を記したこと。 (4点)

(具体性がない) x

(解答例1) 宋公の功績を奪わなかったこと。 (0点)

x ?

(解答例2) 正史を記した書に 位にかかわらず著者の名を列記 する こと を し た こ と で な け れ ば な ら な い こ と 。 (3点) x

具体的でない x  
「記した」でなければ x

(解答例3) 二つの書物の編纂者に 二人の名前が記されたこと。 (0点)

具体的でない x

(解答例 4) 文人でありながら欧陽公が宋公と功績を分け合ったこと。 (0点)

(解答例 5) 編者の名を宋公に譲ったこと。 x (0点)

あっても可 「の編者として」が不足 **プラス1**

(解答例 6) 欧陽公が 完成した書物に わざわざ 宋祁の名を加えたこと。 (1点)

a b・c 「扱った」 **マイナス1**

(解答例 7) 唐書を書いた功績 を独占せず、宋公を著者として扱ったこと。 (3点)

a b c

(解答例 8) 唐書の編著者を 自分と宋公の 二人として名を記したこと。 (4点)

具体的でない x 具体的でない **プラス1**

(解答例 9) 一つの書物の筆者として 二人の名を記したこと。 (1点)

x

(解答例 10) 旧例に反し、監修者でない宋公の名前を書いたこと。 (0点)

【四】(現代文・文科のみ)採点基準(文科=合計20点)

問一 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 1点

(C) 2点

今ある血口を否定してやみくまいに他者の悪徳を徳とよび賞讃のまじり難む事問や仕事で業績を上げれば世間でまゐるに懸念する社会システムへの劇的な近代人の生き方のシブ

(D) 1点

以上4ポイントで採点。Aは「be」そのまま書いたものは不可。伝統的な私の否定も不可。あくまで「be」の区容を踏まえて、表現的な工夫も十分なものでして初めて1点。Bは「の」の扱いであることが望ましい。Cが一番採点上の問題がおきることが想定される。あくまでも「社会システム」における話である「よ」を書く必要がある。その上で「普遍主義」と「業績主義」と「この表現をそのまま用いる」となく「正解のみ」に完全説明が及んで初めて1点とする。「この表現をそのまま用いたものは最高で1点。また、社会システム」について言及しなければならぬ減点となるので、「これは大多数が0点。あるいは1点に近づけて1点を」を与える解答は少ないのではないかと想定される。Dは近代人「」,「マンマニック」の両要素がそれぞれ1点。一方では不可。

問二 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 2点

近代人が、身近な他者との関係ではなく、神や国家等の人の生を強力がつ普遍的に規定す

(C) 1点

(D) 1点

る原理」則じて生きたる理徳」に「この理徳」を「血口」の表現に悪徳を見出して生きた」。

以上4ポイントで採点。まず、この問題は本模試における最大の難問であり、大半が0点あるいは1点になることさえ考えられる。点数が悪いからといって、甘くつけることのないようにお願いしたい。Aは、「身近な視線」と「この解答が多数出ることが想定されるが、視線」は傍線部中の表現であると同時に「やや比喩的である」こともあり、言い換えて説明しない限り、一切点数は与えない。Bはこの難問の中でも一番の難所である。まず「原理」「思想」と「この言葉」を両者とも「この押し合っている」ことが必要。その上で「視点」「視線」と「この表現はすべて解答に残すことなく、説明に及ぶ」ことが必要。「神や国家等」と「この具休例はなへとも可」。この「遠い他者」は不十分なため不可。「原理的視点」という表現を用いて、「思想」と「この言葉」も使われていれば、多少表現が不十分でも、1点のみ与える。「C」は大半が0点になる可能性が高い。「C」は「誘導制御」も可。Dは「意味」として生きたるを説明し「この意図が見られ、ある程度言い換えられていれ可」。

問三 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 1点

近代における人間の身体性や儀式に対する不当なまでの侮蔑は、元來他者との相互性を持

(C) 1点

(D) 2点

が、自律性も脆弱な思惟する自己を肉体にまで高めて、過剰に重視した結果だから。

以上4ポイントで採点。Aは「精神」に「が」が付されていて可。「儀式」はなくとも可。「近代」は必須。「肉体」を「すがた」の書いたものは、甘いのが可とする。「他者」との関係性が示されていていれれば、表現的にはこの通りでなくとも可。他者志向という表現を用いたものにも、甘いが得点を与える。Cは「自律性」は必須。単に「固有」だけでは不十分。Dは実質的に2ポイント。「思惟する自己」の重視「で」1点。その「思惟する自己」の「実体化」で1点。「実体化」は「物象化」も可。単に「おもい」、あるいは「内面のおもい」と書いたものは、今述べた2ポイントを押さえていても、最大で1点。どちらかが欠けていれれば0点。

#### 問四 (5点)

(模範解答例)

(A) 1点

(B) 1点

思惟する自己によるもの造形が不可能になって、かといって毎朝の対象であった

(C) 1点

(D) 1点

(E) 1点

身体が無意識の知性すら持った、生きた全体として、自己表現の場となった」と。

以上5ポイントで採点。Aは「思惟する自己」といった表現が本来ふさわしいのだが、厳しくつけるとほとんど点がなくなるので、「精神重視」といった「近代」の特徴について言及されていれれば、1点与える。B、C、Dはすべて文中そのままの表現であるだけだから、このとおりでなければ不可。E「本日の『私』を求めて」という表現も可。